



3:1 最後に、私の兄弟たち、主にあって喜びなさい。私は、また同じことをいくつか書きますが、これは私にとって面倒なことではなく、あなたがたの安全のためにもなります。

3:2 犬どもに気をつけなさい。悪い働き人たちに気をつけなさい。肉体だけの割礼の者に気をつけなさい。

3:3 神の御霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇り、肉に頼らない私たちこそ、割礼の者なのです。

3:4 ただし、私には、肉においても頼れるところがあります。ほかのだれかが肉に頼れると思うなら、私はそれ以上です。

3:5 私は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエル民族、ベニヤミン部族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法についてはパリサイ人、

3:6 その熱心については教会を迫害したほどであり、律法による義については非難されるところがない者でした。

3:7 しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。

3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、

3:9 キリストにある者と認められるようになるためです。私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持

つのです。

3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦難にもあずかって、キリストの死と同じ状態になり、

3:11 何とかして死者の中からの復活に達したいのです。

イエス様の十字架によって救われた人々の集まりである教会で、まだほかに救いの条件があるかのように主張する人々がいました。割礼を受けなければ救われれないと言う人々がそれで、パウロは犬ども表現しています。

割礼とは神の民であることの印ですが、それはあくまでも十字架による救いを知るための、ひとつの備えでした。パウロが言うとおりに、救われた者が「心に割礼」すなわち印を持っていることが本当の在り方なのです。私たちも外面や人からの見たとらわれることなく、心を大切にしましょう。すなわち主が分かってくださるということ重要にして、自分のアイデンティティーを確立していきましょう。

そのようなパウロは、以前の自分のプライドは、永遠の救いにくらべたら「損」とさえ感じると言っています。救われたことの絶大な価値を忘れることなく、また薄めることなく、大きな感謝をささげて生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

